

(様式第1号)

平成30年度 第3回 芦屋市青少年問題協議会 会議録

日 時	平成30年11月29日(木) 14:00~16:00
場 所	芦屋市役所 北館4階 教育委員会室
出 席 者	会 長 廣木 克行(神戸大学 名誉教授) 委 員 進藤 昌子(芦屋市保護司会 会長) 委 員 守上 三奈子(芦屋市子ども会連絡協議会 会長) 委 員 鈴木 みのり(芦屋市PTA協議会 副会長) 委 員 入江 祝栄(芦屋市青少年育成愛護委員会 会長) 委 員 中谷 洋美(市民公募委員) 委 員 藤井 義典(芦屋警察署 生活安全課長) 委 員 北野 章(芦屋市立精道中学校 校長) 委 員 田中 徹(芦屋市教育委員会 社会教育部長) 福岡 憲助(教育長) 三田 恵美子(若者相談センター専門相談員) (欠席者) 副会長 渡部 昭男(神戸大学 教授) 委 員 竹内 安幸(芦屋市自治会連合会 理事) 委 員 許 和子(芦屋市民生児童委員協議会 主任児童委員)
事 務 局	愛護センター 大久保所長 愛護センター 和泉係長 コンサルタント 糸魚川(株式会社名豊)
会議の公開	公 開
傍 聴 者 数	0人

次第

1. 開会あいさつ

教育長 福岡 憲助

会 長 廣木 克行

2. 議事

(1) 若者相談センター「アサガオ」について

報告 若者相談センター専門相談員 三田 恵美子

(2) アンケート調査について

(3) 芦屋市子ども・若者計画について

3. 閉会

提出資料

- ・次第
- ・「第3回芦屋市青少年問題協議会」レジュメ
- ・「芦屋市子ども・若者計画」に関するアンケート調査
- ・「芦屋市子ども・若者計画」に関するアンケート調査【中高生用】
- ・「芦屋市子ども・若者計画」に関するアンケート調査の実施について
- ・「芦屋市子ども・若者計画」に関するアンケート調査項目一覧表
- ・「芦屋市子ども・若者計画」の改定に向けたアンケート調査の概要
- ・「芦屋市子ども・若者計画」中・長期の策定スケジュール
- ・若者相談センター「アサガオ」のパンフレット

1. 開会あいさつ

【事務局大久保】 それでは定刻になりましたので、始めたいと思います。

（挨拶。竹内委員は欠席，許委員はこの時点で不在。本日の出席者12名中9名で本会議成立の報告）

（前副会長の委員辞任報告，副会長後任の渡部委員は本日欠席）

（副会長後任について出席者の異議なく了承）

ありがとうございます。それでは始めに福岡教育長からご挨拶申し上げます。

【福岡教育長】 皆さん、こんにちは。今日はお忙しい中ご参集いただき本当にありがとうございました。皆さん体調は崩されてないでしょうか。もう体温ほどもあった夏の暑さからスーッと今の時期，過ごしやすいと言えば過ごしやすいですが，暖かかったり寒かったりすると，ついつい体が，とことん暑ければ暑いで体はいきます。寒ければ寒いですが，上下があるときは風邪を引いたり，日頃頑張っているせいで疲れが出たりすることもありますので，十分に気をつけていただきたいと思います。

なかなか私もそのことにはついていきにくいことがありますが，今頃はサブリというものがあって，そういうのを店で買ったりしますが，今日私たちがテーマにしている子どもたちの育成は，サブリというのがあるわけではなくて，日頃から3食の食べ物の中から栄養をきっちり吸収していかなければならないことが多々ありますが，そうは言っていられない場合もあります。様々な子どもたちに対応しているときに，どんなかたちでサブリめいたこともあれば，また長い持続的なものもあるかと思っています。

全国学力状況調査の結果を見ますと，全国的な傾向ですが，自己肯定感であったり自分にとっての将来的な夢であったり，他国の子どもたちとの比較をみると，低いような気がしてならないです。そのことを受けて，今回のアンケート項目にも芦屋市の子どもたちの実態に関することを入れていただき，また今日ご審議いただく中でよりどのような育みができるかを期待しているところです。

また芦屋市にとっては，今日は三田先生にきていただいておりますが，「アサガオ」という，ひきこもりがちであったり，その傾向をお持ちのご家族の皆さんが，そ

ここに行ったら何か聞いてもらえると、これからの希望の光として活躍していただいているのは、私は大変嬉しく思うし、全国的に誇れるものと思っています。そのことができるのも、今日ここに集まった廣木先生を中心とした皆様の支えがあったのことと思っています。アウトリーチとかいろんな手法はあろうかと思いますが、これからの芦屋市の子どもたちがどんどん歳をとっていくと、やはりひきこもりという、また別の次元の話になってきます。その人たちを1人でも2人でも減らし、家族の皆さんが希望を持てるようなものが少しでもできればと思っています。

皆さんにおかれましては多忙の中ではありますが、この芦屋市子ども・若者計画等をさらに充実させ、これが実効のあるものになりますように、どうかこれからもご指導のほどよろしく申し上げます。ありがとうございました。

【事務局大久保】 ありがとうございました。続いて廣木会長、ご挨拶をお願いします。

【廣木会長】 この間非常に気になったのが、文部科学省から報告がありました不登校といじめ調査の結果報告が、新聞やテレビでもだいぶ大々的に報道されましたが、とくにいじめは調査がかなり細部にわたって行われたということで、その反映でもあると思います。41万件を超えたといういじめ調査でした。

考えてみれば、41万件という数字は、いじめられた子どもの数と考えると、いじている子どもの数も加えると倍になります。それが1人であれば、でも多くの場合はさらに複数、もっと多くの子どもたちがいじめをしているわけですから、41万×X、何倍に一体いじめに関わっている子どもたちの数が膨れるか、おそらく100万オーバーになってもおかしくないような現実があります。

しかも、学校の中からいじめが0として報告されたのが4分の1くらいあって、まだ実は現状にほど遠いというコメントも出されていますから、この子どもたちのいじめの問題1つとっても、かなり大きな状況の変化を我々は考えないといけないのではないかと思います。

それから、不登校のカウンセリングと全国での親の会での相談会をずっと続けてきて、昨日この芦屋市で不登校の親たちの相談会をしたのですが、とくに小学校低学年の不登校の子どもたちの相談が最近は大変増えているのが、臨床的な場から言う実感です。というのは、小学校低学年で不登校が増える、そしていじめや暴力なども増えるということは、幼児期からの子どもの育ちを視野に入れて物事を考えていかないと、本当の子どもたちの抱えている問題が見えてこないことにもなります。かなり根の深い問題が、しかも広く増加していることを、我々はいつも念頭に置いて考えなければいけないと思います。

そして幼児期の問題では、最近虐待の悲劇がいろいろとまた報じられていますが、やはり保護者に対するどんなサポートが必要なのか、求められているのか、このことも我々の視野に入れておかなければならないことを、つくづく思わせられるデータや事件報道などが散見されるわけで、私たちこの協議会の役割や仕事も広い視野も持ちつつ、実は非常に大きな責任を持っていることを、私は改めて思います。

現状についてのその認識と同時に、我々は新しいデータを大事にしながら、近い将来に向けてどんな見通しを持ってどんなプランを考えて、この芦屋を子どもにとっても大人にとっても住みやすい街にしていくか、その一番大きなテーマにこの青少年問題協議会が関わっています。非常に私は責任の重さを感じながら、そのデータを見ていることを、まずここで皆さんにお話ししたいと思いました。そして今日は今福岡教育長が言ったように、「アサガオ」の報告をこのあとうかがいますが、大変素晴らしい活動をいろいろなさっていて、芦屋の子どもたちを全国的なデータだけで考えるのではなく、芦屋市に地面に足をつけて活動していて、ここのデータや報告と全国的なデータの両方を視野に入れながら、私たちはリアルな、そして時代の問題にしっかりと対応できるようなプランを、これから考えていかなければいけないと本当に思っています。

今ご紹介いただいた渡部先生は、神戸大学の私の後で来た先生ですが、私の次の次の付属特別支援学校の校長をなさって、大変力のある方ですので、これからさらに大きな力を得て、青少年協議会の中身のより深い議論ができることを期待しています。本当は今日来てくださるかと思っておりましたが、残念ながら来られないとのことですが、次回からそれを是非楽しみにしていただきたいと思っています。今日はどうもお忙しいところありがとうございます。よろしくお願いいたします。

【事務局大久保】 会長ありがとうございました。本日この場と議会对応があり、教育長はここで退席します。ありがとうございました。

(福岡教育長はここで退席)

【事務局大久保】 (規定により本会議は原則公開、非公開情報が含まれる場合は非公開とすることができる旨の連絡)

(委員発言は録音、委員の確認後に芦屋市ホームページに公開。第1回と第2回はホームページに公開中)

(傍聴者はなし)

(三田委員と事務局、コンサルタントの自己紹介)

では、皆様の机の上に配布した資料の確認をしますので、会長よろしくお願いいたします。

【廣木会長】 机の上にパラパラと置きました。まずは本日の第3回芦屋市青少年問題協議会のレジュメです。それから「芦屋市子ども・若者計画」に関するアンケート調査、その中高生用、A4一枚もので「芦屋市子ども・若者計画」に関するアンケート調査の実施についてです。A4横の中・長期の策定スケジュールが1枚、それとA3横ですが「芦屋市子ども・若者計画」の改定に向けたアンケート調査の概要、同じくA3縦でアンケート調査項目一覧表、本日お話いただきます「アサガオ」関係のパンフレットです。

【事務局大久保】 よろしいでしょうか。無い方はおっしゃってください。よろしくお願いいたします。それではいよいよ議事に入ります。ここからは廣木会長、よろしくお願いいたします。

2. 議事

【廣木会長】 それではただいまから議事に入ります。資料はよろしいでしょうか。本当は今日初めて渡部先生が来ると思って、一応おさらいをと思って準備してきましたが、ごくごく掻い摘んで思い起こしていただきたいのですが、前回の会議は3つの議題がありました。

最初の議題は「第1期子ども・若者計画」で、現在進行中のこの計画の進行管理についてということで、各部署の評価の妥当性について事務局から提案があり、それを審議しました。とくにトライアルウィークの捉え方などの問題について、認識を新たにしました議題でした。

第二の議題が「第2期子ども・若者計画」の作成のための基礎資料としてアンケート調査をしたいと、今日またそれを引き続き行いますが、それについてご報告があり若干の審議をしました。そして最後に、時間がないこともあり、会長と事務局、さらに何人かの委員に参加して、そこに一任していただいて詳細を詰めたという了解を得て、このアンケートについての審議をまとめました。それが2つ目の議題でした。

3つ目の議題は「進路調査について」です。中学校を卒業すると芦屋市以外の地域の学校に行くと、なかなかそのあとのフォローができず、実際に引きこもりなどの問題はその人たちのデータが分からないと実態が分からないこともあり、進路調査を事務局で大変努力してやっていたいただきました。その継続の報告をしていただきました。

大きく分けてこの3つの議題、報告がありました。ちょっと思い出していただきましたでしょうか。それを踏まえて今日の議題は、今係長からありましたが、次第にある3つの議題で今日は進めます。

第一の議題は「若者相談センター「アサガオ」について」です。ご存知のように「第1期子ども・若者計画」の目玉の1つと言って間違いはないです。何度か報告いただきましたが、子どもたちにとって活動しやすい公園という大きなテーマで、これはまた大変熱心に取り組んでいただきましたが、同じように若者相談センター「アサガオ」についても目を見張るような目覚ましい活動をしていただき、その報告は逐一事務局を通して聞いていますが、今日はそれを総括的な報告をいただき、次期に向けてさらに良いイメージを持つことができるようにしたいと思って、「アサガオ」の活動報告を最初にいただきたいと考えました。

2番目がアンケート調査です。前回の議題で会長および事務局に一任いただき、そこで詰めて議論したことをまず報告することと、実はそのあと教育委員会が先月あり、ここで煮詰めたものを教育委員会にご紹介して、そこでもご意見をいただいているとのことですので、それを合わせて、この間提示したものからだいぶバージョンアップしたものを今日ご紹介いただき、それについて審議いただきます。最後に、今後の第2期の芦屋市子ども・若者計画の作成タイムテーブルです。これを最終的なものとして事務局から報告いただき、皆さんに確認いただきます。この大きな3つの議題で進めます。議題についてはよろしいでしょうか。それで

進めますのでよろしくお願いします。

(1) 若者相談センター「アサガオ」について

【廣木会長】 それでは最初に「アサガオ」の三田先生、大変お忙しいところありがとうございました。これから今までの活動、とくに最近の特徴などについて、お考えのところを率直にお話しいただければありがたいと思います。よろしくお願いします。

【三田委員】 先ほどの廣木先生の話のうちが、私は青少年センター3階の一室で、日々必死でやっているつもりでしたが、日本中から見れば雫のような、点のような活動でしかないことを実感して、ちょっと報告申し上げるのが恥ずかしいような気がしています。気を取り直して報告します。

ご存知のように、この2013年10月秋に芦屋市若者相談センター「アサガオ」が設置されました。これは内閣府の子ども・若者育成支援推進法と芦屋市の育成支援計画の中で生まれたものです。最初の年は半年で3月のデータを集約する時期を迎えましたが、そのときは70件ぐらいの相談でした。あれからこの時点で5年2ヶ月の時間が経過しましたが、大体毎年100件ぐらいの相談数はあるように思います。今年はまだ集約の段階までいっていませんが、昨年平成29年度、つまり平成30年3月でまとめたところによると、相談件数が865件でした。本当に様々な内容がありますが、大体一月に70件から100件の電話や面談が入ります。現在その数字になっています。

相談内容の内訳は概数で申し上げますと、3年くらい前から相談件数の中で引きこもりが40%から55%弱の割合を占めます。不登校が30%から40%ぐらいです。あとの20%は親子関係や家族関係、コミュニケーションがうまく取れない、それから精神障害のためにみんなとうまく付き合えないという相談を受けています。その家族関係の問題も引きこもりも不登校も根っこを辿っていくと、ひょっとしたらこれは発達機能のところに皆さん気付かないまま、大人になっていったのではないかなと思うようなケースがたくさんあります。

そういう相談を、「アサガオ」としてどのような受け止め方をしているかに移りますが、まずは聴くことが全てです。「聴」の方です。じっくり聴くしつかり聴くことを全てに置いています。しかし何度も継続する方もいて、それだけでは済まないことがありますので、どうしても助言というものが入ってしまうのですが、助言のところではできるだけ他機関への紹介などの話を進めていきます。他機関で言うと、精神科、心療内科への受診の勧め、それから福祉関係の公的サービスの窓口を紹介することが、主なる助言内容です。じっくり聴くといっても、私たちは大体1人1時間の約束をしていますが、喋り出したら止まらない方もいて、別の相談員が先月4時間半聴かれました。どちらのエネルギーにも感嘆しましたが、それだけ聴くとさすがに、それは不登校の相談でしたが、以後来ないです。そこまでとことん聴くと、多分保護者の方は安心されたのでしょうか。不登校の生徒やお子さんの姿が見えなくても、お母さんを通してその悩みや苦しみの深さを知った一例でもあります。

「アサガオ」がどういう場所かという、まずは相談を受けること、それから不登校、引きこもりの人、またはそのご両親の居場所になることをめざしています。とくに引きこもりの方などがそうですが、人と会話できないとか、仕事をしていてもみんなと上手くいかないとかの訴えがすごく多いように思うので、何度もお会いして会話し、彼らが落ち込んでいるその中身から自己肯定感を上げられる事実が一杯隠れていることに気づき確認し高めていく思いで会話をしています。そして両親の支援をすることによって、不登校、引きこもり当事者の家族の中での暮らし方が楽になるように応援をすることが、活動内容です。具体的に言うと、いじめは、幼児期や小学校時代にいじめられた記憶が皆さん全員にあるので、そのいじめの記憶から立ち直り立ち上がれるように支援したいと思い、その会話や話を聴きます。

また引きこもりの人であれば、引きこもりと言っても様々な引きこもり方がありますが、「アサガオ」に来れる人たちはコンビニに行けるし、自分の好きなものを買に行けますが、社会的なつながりができません。就職しようと思ってもなかなか上手くいかない引きこもりの方がほとんどです。「アサガオ」で引きこもりのご本人たちと関わっていくときに、様々なコミュニケーションをとりながら、彼らの中にある自信や仕事への思いを引っ張り出して整理していく役割もしています。つまり、本当に引きこもっていけば出て来られないところがあって、保護者が来て相談するということになります。

不登校の子どもたちは、先生方とのやり取りの中で、信頼関係を損なうような言葉の記憶をいつまでも思い続けていて忘れないのです。学校やそれにかかわる家族との信頼関係を取り戻せる方法はないかと関わろうとしています。つまり、学校とのパイプは切らさないうずとやってきましょうとか、ご家族とちゃんと話をしていきましょう、ということにつながるような支援をしようと試みています。そのようなことが大体「アサガオ」の具体的な活動ですが、現状ではなかなか厳しいものがあります。「アサガオ」の対象になっている人たちは、スタート時点では義務教育を卒業してから40歳未満としていましたが、現実が一番若い方は最近では小学生がいます。基本的には小学校よりも中学2年生くらいから45歳未満の方々の相談を受けます。実際43歳くらいの女性や男性が電話や来室にされ相談するので、45歳未満かなと考えています。

こうやって「アサガオ」は、皆さんの声に耳を傾けていくことを中心に進めていますが、設立以来3つのささやかな事業を広げています。2013年に「アサガオ」が開設されましたが、その翌年の2月、3月から「アサガオ」連続セミナーでコミュニケーションスキルを磨く、スキルという言葉は直接出していませんが、「心を育てる話し方聴き方」という大きなテーマを掲げ、ずっと2013年から今まで年に1度ずつ、コミュニケーションを専門にしている「アサガオ」相談員でもある富岡先生に来ていただき、市民講座的に開設しています。現在は当事者の保護者が参加したりして、様々な方が毎回入れ替わり立ち替わりセミナーに参加するようになりました。通常15名くらいで開催しますが、去年はなぜか毎回30名く

らしい参加者でしたが、今年は12、13名くらいに落ち着く状況でした。たまたま11月17日に今年の「アサガオ」セミナーが終わり、アンケートを取った中に、あるお父さんがまもなく退職だけれども、退職したら家族の中で居場所があるだろうかとすごく心配していました。その居場所作りに自分はどんなコミュニケーションを家族と取ればいいのかををつらつら考えて、このセミナーに参加し、今は家族といることが楽しいそうです。もちろん1回出るだけでそんな簡単なことではないので、多分準備して前の年から出ているのではないかと思います。そういう感想もいただきました。嬉しかったです。

また、親子関係で不登校気味の子とちょっと喋ると喧嘩になるというお母さんが参加していて、声かけやコミュニケーションは言葉だけではないという内容のセミナーもありましたので、その経験を通して、両方が喋られるようになったと話があって、こういう喜びが直接アンケートを通して入ってくると、良かったという実感があります。これは来年も同じようなテーマで、繰り返し繰り返しトレーニングいくのではないかと思います。

2016年4月に、今度は「キ・テ・ミ・ル・会」というのを開きました。「キ・テ・ミ・ル」というのは、会の名前を何にしよう、ちょっと来てみるみたいなつもりでしたらどうかと、安易な付け方です。参加される方はなぜか男性ばかりですが、毎回3名くらいは必ず来ます。クリスマスイベントなどをすると40代の方も中学生の方も来て、ちょっと賑やかな「キ・テ・ミ・ル・会」になりますが、普通は3名くらいが自分の好きな世界の話、ゲームの話、先日はマインドフルネスの話をしていました。時には日本史の歴史上の人物の話などをぼそぼそと1時間ほど話していますが、女性が入れない会はちょっとまずいかなと思っているのが現状です。

また去年の9月に「親の会」をスタートさせました。月1回、第1日曜と設定しましたが、第1日曜が近づくと、いつもドキドキします。それは何人の方が参加してくれるだろうかと、どうしても数字を気にしてしまっていて、しかし毎回5名くらいは人が入れ替わって参加してくれます。最初は「アサガオ」に相談に来る方に声をかけましたが、今は新しい方が急に入ってきて来たりもされます。なぜ「親の会」を考えたのかと言うと、去年は不登校の相談が多くて、私としては、ピアカウンセリングのように皆さんとご一緒することで、もっとゆとりとか様々な視野を広げてお話を共有できるのではないかと思ったのがきっかけです。発足の時には、廣木先生にもご助言いただき、田中部長と西宮の親の会を見学させていただくこともしながら行っています。保護者同士でLINE交換したり、情報共有したりしているみたいで、これは良かったかなと思っています。

このような会を3つ同時に動かしながら、「アサガオ」は本人と周囲の人たち、家族、学校、そのつながりの中で進めています。保護者の願いは広がり、何人かが突然訪ねてきて、ここを不登校の人の居場所にしてくれませんかというお話があつたりします。芦屋のお母様方は元気な方が多くて本当に飛びこんできて、私はひきこもりの人たちが活躍できるような場を作るNPO法人を作りたいです

けど方法を教えてくださいとか、ストレートな質問をいただくような場所にもなって、それだけ周知していただいているのだと思って嬉しいです。ここでひきこもりの人たちの就労のトレーニングや就職斡旋をしてくれないかとの話がときどきあります。それは「アサガオ」の役割ではなく他の機関をご紹介することをつないでいますが、もっともっと「アサガオ」のことがたくさんの方に知られると、いろんなご要望が出てくるのではないかと気がします。

こうやって、ここで説明の場所をいただいて振り返ってみて、私はキーワードは「つなぐ」の3文字かなと思いました。つまり「アサガオ」が皆さんとつながる、それから「アサガオ」からその方々を次のステップにつないでいく、皆さんとつながり、各部署の方々につないでいくのが「アサガオ」の役割だと思っています。ご静聴ありがとうございました。

【廣木会長】 どうもありがとうございます。この5年と少々ですが、この間いろんな活動をいろいろの思いを込めてやってきた、その一端を今ご紹介いただきましたが、うかがった感想でもいいですし、何か尋ねたいことがありましたら、皆さんから出していただけないでしょうか。

ちょっといいですか。この5年間やってきて、他の市町村などのそういう活動との交流もあると思いますが、芦屋市には何か特徴があると感じたことはありませんか。もしあるとすればどんな特徴があると感じているか、その辺りを教えてほしいです。

【三田委員】 ひきこもりのケースですが、不登校の場合は目の前に学校に行く、卒業する、進学するというすでに用意された枠があるので、そのことに合わせようと家族全体があたふたするのが現実です。ひきこもりの場合はほとんど今、なんとか暮らしていている人たちが多くて、父母が年金生活だけど家もあるし年金もあり、でも一番心配なのは私たちが死んだらどうするかという話なので、ひきこもりの当事者は大変な思いなのでしょうが、両親や相談者が、「アサガオ」を訪ねてくるときにはそれほど切迫感が無くなっています。全く会話が無いですとか、そろそろ仕事してくれると私たちが死んだ後も楽ですという話から始まるので、そんなにひきこもりの保護者の方と「アサガオ」のつながりが継続しないです。つまり、「アサガオ」でご家族としての対応方法の確認が得られたら、もう来ないです。来なくても、そのひきこもり当事者は生活できるし家もあるし、皆さん方が相談に来たら、私は我流ですが、おひとりになったら出ていきますよと申し上げるしかないですが、そのように生活面で恵まれている事実は圧倒的に他の市と違うように思います。数字では出していませんが、お話を聴くとそう思います。それは芦屋市の特徴だと思います。

【廣木会長】 ありがとうございました。その辺りが先ほどの報告の中で、就労の斡旋への要望があって、地域によってはそれが非常に多い地域、それはもう日々の生活そのものがかなり不安、困難になっていて、それにどう応えていくのが非常に大きなテーマになっていますが、芦屋市の場合はそれが無いわけではないけど、どちらかと言うと比較的豊かなために、困り込みが地域にあるがために問題が少し見

えにくくなり、その問題をどう捉えるかに特徴があるかもしれません。

他にどうですか。ちょっとこのこと聞いてみたいということはありませんか。

【北野委員】感想みたいになります。中学校の現場で思うことを言うと、1つは本当に聴くことはものすごく大事だと思います。例えば保護者がすごく不安を不満も含めて訴えてきたときに、学校では時間に限りがあるので、1人1人にどれだけの時間が使えるかという限界もあって、本当はその人が喋ることによって、安定していくというか、自分自身の中でどのように今後動いて行ったらいいかが整理されていくのですか。

ところがそこへもっていく前に、聴いている側がアドバイスというか、先々こうした方がいいんじゃないとか、こうすべきですということを出してしまう。そうすると効率がいいようで、実はその人にとってなかなか収束しないことがあって、学校としては無限に時間があれば、ゆったりと構えてその人の思いを全部吐き出させて、そして中が空になった状態にしていくと、こちらがお話ししなくても、自分自身で結論を見出していくような場面がでてくるのですが、学校ではなかなかそのレベルまでいくのが難しいとすごく思っています。

それからいじめの問題もありましたが、子どもたちは中学生でもそうなのですが、今いじめがなくても過去にいじめがあると、ものすごく引きずります。前向きに生きられる子どもたちは、過去のことはこだわらずに、つらいことも振り返らずに前へ進めますが、しんどい子はいついつい昔のことを振り返ってしまい、そのことがずっと心の中に残っています。今の中学校生活の中で、たとえいじめが無かったとしても小学校時代や、中3になっても中1時代にあったことをずっと引きずることがあると、すごく感じています。

それからトラブルは、私は学校では起こるものだと思います。トラブル無しで学校生活を送れることは、ちょっと普通あり得ないです。それをいかにうまく乗り越えるかですが、乗り越えられる子どもと乗り越えられない子どもの違いは何かと思ったときに、やはり家庭がしっかりしているかどうか。子ども自身は家庭が安定していたら、ちょっとしたトラブルも日にちを置けば家へ帰ってそこで充電することで回復できますが、家庭にその力が無いとすぐに挫けてしまって、それがきっかけで学校へ行きにくくなるとか体調不良に現れるのが、今の傾向かなということ、家庭の問題に学校が踏み込むことが難しい中で、不登校の問題については苦慮しているのが現状です。

【廣木会長】非常によく分かる話、納得できる話でした。とくに学校では時間に限界があってもっと聴ければ聴きたいのに、どうしてもアドバイスや助言をしてしまう傾向があり、ここは学校の先生たちの忙しさの中でのジレンマだと思いますけど、そんなときに例えばスクールカウンセラーを活用するとか、または「アサガオ」を紹介してつなぐとか、何かそのようなこと学校の中でどうでしょうか。

【北野委員】スクールカウンセラーは有効に活用していますが、スクールカウンセラーも例えば1回の相談には限りがあり、また今実際に週1回6時間ずつ来ていただいています。なかなかニーズが多くて、連続で相談するには予約を取るのが難しい

ところがありますので、学校現場としては教育委員会を通じてスクールカウンセラーの配置時間数を増やしてほしい要望は出しています。

【廣木会長】ありがとうございました。他どうですか、今のお話をうかがって気がついたこと、時間に限りがありますが、それがあつたら出していただけませんか。

【三田委員】「アサガオ」に来る中学生の不登校の保護者のおっしゃっていることは、「先生たちが忙しいのはよく分かっていますが、どうして電話かけてくれないのか、ときには訪ねて来てくれないのか」と訴えます。保護者の方は学校の担任の先生に焦点化して、もっとうちの子をとります。気になったら必ずお母さんから「時々声をかけてください」と先生にお願いしてみましょと伝えます。やはりさっきも言いましたが、子どもも親も学校に対して不信感を持ったまま終わらないようにするためには、つながっていないといけないので、必ず担任の先生や保健の先生と話をし続けて下さいと繰り返してお伝えしているという事例が最近の出来事です。

【廣木会長】なるほど。3つの事業の中でセミナー、キ・テ・ミ・ル・会、親の会とありました。私は親の会がとても大事と思って、そこに来て親同士で話し合つて他の親の意見を聴いて自分を見つめ直すことは、人から助言されて欠点を指摘されたときの身構えるのは違つて、かなり素直に聞くことができます。親の会のピアカウンセリング的な機能はかなり重要と思いますので、これを始めたとき聞いたときに私はやったと思って、これを是非充実させていただきたいと本当に思いました。

【三田委員】ありがとうございます。

【廣木会長】それから「キ・テ・ミ・ル・会」は男性の参加が多いということで、これもそうですが、とくにひきこもりの圧倒的多数が男性です。これは別の言い方をすると、女性がひきこもつていても家事手伝いとして、言い訳できるような雰囲気はまだ社会にも家庭にもあつて、自らがひきこもりとしての意識がなかなか持ちにくい意味も込めて、男性が「キ・テ・ミ・ル・会」の参加者に多いという報告は、まさにそうだと思います。

同時に不登校の相談は女の子が多いです。女の子は話すことが比較的できて自分の内面を、男の子は話を聞いてもなかなか話にならないというか、どちらかと言うと注目をしてしまうケースが多くて、男の子のカウンセリングは母親と一緒にだと、母親もほとんど話すような関係のカウンセリングになつたりします。この辺りのそれぞれ性差によるのか分かりませんが、その工夫もおそらく3つの事業ではかなり大事になってくるのではないかと思います。

どうでしょうか。無ければ大体この辺で。

【事務局大久保】ひとつ宣伝ですが、皆さんの机の上に2枚あると思いますが、この「アサガオ」の大きな方ですが、こちらは成人式のときに配布しています。市のいろいろなカウンター、教育委員会にも置くようにしています。

こちらの小さな方ですが、これは中3の卒業前に子どもたちに配るようになっています。これは「アサガオ」だけでなく、裏を見ますと非常に小さい字で他の市の相談機関も全て網羅してありますので、子どもたちも胸ポケットでしまつてお

けば、何かあったときに役に立つようにとのことで、昨年度からこれを作っていました、このようにQRコードも付けてスマホにも対応するようにしています。それとホームページや広報紙にもPRしています。もっとPRする必要があるかと思しますので、今後も考えていきたいと思います。

【廣木会長】 どうもありがとうございました。それでは第1の議題は一応ここまでとしますが、ご質問ありますか。よろしいですか。

【事務局大久保】 三田先生は退席しますので、ありがとうございます。

【三田委員】 ありがとうございます。

(三田委員はここで退席)

(2) アンケート調査について

【廣木会長】 それでは第2の議題に入ります。この間アンケートの問題をいろいろご指摘いただきましたが、その後私も参加して事務局を中心にして、ある程度煮詰めを行いました。教育委員会での報告もしてご意見をいただきました。その経過も含めて事務局から報告をお願いします。

【事務局大久保】 (アンケート調査についての説明)

【事務局和泉】 (アンケート調査についての説明)

【廣木会長】 ありがとうございます。かなり資料が多いので、聞きながらなかなか難しいですが、ただいまの説明について分かりにくい、ここをもう一度話してほしい、ここはどこを見たらいいのかなども含めて、皆さんからご質問を出していただきたいと思います。いかがでしょうか。

本体を見ると2つありますが、これはどのように理解すればいいですか。

【事務局和泉】 それは後で説明しようと思ったのですが、まず2つあるのは、中高生用の別のものはアンケート本体です。対象者は15歳から39歳までの方が書けるように設定しています。中高生用はそれでもまだ学生には要らない部分を除いたもので、ダイジェスト版として作って、これはこれでまた別のアンケート本体で、配布して回収を考えています。

【廣木会長】 これは前回なかったです。前は1つでしたね。

【事務局和泉】 前回というのは平成26年ですね。

【廣木会長】 そうです。

【事務局和泉】 前は1本でやりました。

【事務局大久保】 今回は2本立てです。

【事務局和泉】 基本的には本体の部分を抽出したものです。それは学生に要らないだろう部分を抜いたということです。

【廣木会長】 分かりました。それをこの縦長で一覧表を見て、これは中高生用とさきと分かるようになっていないわけではないのですか。

【事務局和泉】 これは本体の部分です。

【北野委員】 15歳から39歳までの市民3,000件ですよ。その中で中高生用と一般用とあり、抽出したあとにその人が学生かどうか、例えば、18歳は高校生かどうかわ

からないですが、18歳を選んだときにその人が高校生か働いている人かを、どのようにして見分けますか。

【事務局和泉】平成26年度のときにサンプル数5,000件でやっていました。今回3,000件で、一応その5,000件の内訳の数字を3,000件に並べたものが持っていますが、新調査を行うにあたって、どんな年齢層に分ければ一番効果的なデータが得られるかは、これから検討を要するところです。一応、心積もりの数字は持っています。それで市内の中学3年生は全員にお願いしようかと思っています。

【北野委員】市内の中学3年生には、12月にやるということですか。

【事務局和泉】はい。お願いしたいと思っています。

【北野委員】それは学校でということですか。

【事務局大久保】こちらは中高生用で悉皆調査でしょうか。ただ、高校生は、他の地区から来ている子もいるので、芦屋市内の子どもたちを対象にするのは、なかなか難しいかと思うのですよ。

中高生も今のところはできたら悉皆で、市の公立学校については3年生にお願いしようかと思っていますが、どうでしょうか。その悉皆でした方がいいのか、その3,000件の中に入れた方がいいのかを考えています。

【北野委員】このアンケート概要の中に悉皆という言葉が、中学生用にはどこにも無いですよ。

【事務局大久保】無いです。

【北野委員】だから、それはどこでどんなかたちで決まったのかが分かりにくいです。

【事務局和泉】お手元にお配りした中高生用の見出し1枚目の文章ですが、これは本体をそのままベースに使っていますので、実際に悉皆調査を行うときは中高生用の文章を考えたいと思っています。

【鈴木委員】例えば市内に住んでいても、中学生でも他市他の地域に通っている子どももたくさんいると思いますが、そこは入ってこないことになるのですか。

【事務局和泉】いえ、それはまたアトランダムに選んで発送しますので、そこでカバーしたいと思っています。

【事務局大久保】ひょっとしたら両方とも回答しないといけない子が出てくるかもしれないことは、正直言った方がいいです。その辺りどんなかたちで通るかは決めていかなければと思っています。

【廣木会長】取り方に焦点が当たっていますが、他にどうですか。

この前に教育委員会でも報告して審議いただいたところ、質問やそういうのがあったらしいと、ちょっとうかがったのですが、その点についての補足はないでしょうか。

【事務局大久保】中に全部書いてしまったので。5ページの「3 仕事に関することについて」で学生さんの場合は、問15の働き方についての設問は聞いている内容が違うので、そこでは新たに「6. 学生」を入れてあります。学生さんは6番に丸をつけたら、その下の正社員や就職活動云々は除いて問17に飛ぶことにしていて、それとまた細かい箇所のご指摘もいただきましたが、3カ所くらい他にもご指摘

いただき、その場は全部その通りだということで修正しています。

【廣木会長】とくに基本的コンセプトに関するようなどころでの修正は。

【事務局大久保】無かったです。細かい文言などの修正の指摘をいただきました。全体に関する指摘はありませんでした。

【廣木会長】分かりました。ありがとうございます。どうでしょうか。お気付きのところや疑問点は。

【北野委員】思ったのは、中高生用7ページの間24の中に、ネットワークやスマートフォン、携帯電話で友達、家族、ネットにつながった人との関係についての問いがあります。例えば芦屋市でもスマホサミットで、スマホに関してのいろんなアンケートを取ってきていますが、友達や家族につながっている状態と見ず知らずの人とつながっている状態では、ものすごく意味が違います。後者は犯罪につながる可能性もあって、スマホサミットのアンケートでは見ず知らずの人とネットにつながったことはありますかとか、それでその人に会った事がありますかとかの項目をとったりしています。

だから、友達や家族と不特定多数でネットで知り合った人とのトラブルとは、また次元が違うような気がしました。これはこの項目を替えてくれと言うまでの要望は無いですが、意見としてはあります。

【事務局大久保】ありがとうございます。確かにそうです。今北野校長先生がおっしゃった通り、友達や家族とはそんなにトラブルはひよっとしたらないかもしれませんが、見ず知らずの人と接触することや、それからよく交番で聞きますが、女の子に裸の写真を送れと言って、結局それを送ってしまって大きなトラブルになったと聞きます。その辺りは考えないといけないと思います。

【廣木会長】そうですね。どうですか。

他にどうですか。先ほどあったアンケートの取り方に戻って恐縮ですが、学校での悉皆調査とは、学校で調査をすると不登校をしている中学生が対象から外れる場合が考えられるのではないかとちょっと思ったので、その取り方で良いのかどうかのことと、それから先ほどありましたが、芦屋市の住民でない人が比較的多い高校の場合は、芦屋市在住の子どもたちだけを対象にするのか、そうでないとなれば、例えばあなたと芦屋市の将来のことが書かれた質問項目は、いささか不自然になりかねないです。そのことは悉皆調査となると出てくる1つの問題点かと思ったのですが、その辺りは今後検討となるでしょうけど、どうでしょうか。

【事務局和泉】中学3年生を悉皆と念頭に置いています。ここをどうするかの問題は会長のご指摘通りですが、うちの市長は校長経験がありますので、特定のクラスだけや芦屋市在住の子どもだけを対象にしては、学校ではアンケートは書きにくいことを聞きましたので、それは悩ましい問題として捉えています。

【事務局大久保】会長のおっしゃったように、確かに全クラスで取ったとしても、そのときに不登校の子が休んで入れば、その子の思いは伝わらないことになりますので、その辺りが悉皆にした場合の非常に問題点かと思うので、そこはまたどんな取り方をするか考えましょう。

やはり、ひきこもりや不登校の子どもたちの思いはアンケートで出してもらわないと話にならないので。そこは今後考えていきたいと思っています。

【廣木会長】 とくにこの調査の基本的なコンセプトは、ひきこもり親和群の持つ状態や意識調査にかなり大きな焦点を当てているのであれば、やはり15歳、中学3年生の子どもたちが外れるかもしれない方法は、なかなか難しいのではないかと思うので、僕は是非じっくり検討していただきたいと思います。どうでしょうか。

【藤井委員】 この話を聞いて市内中高生のかたちですが、他方の見方からすれば、他市から芦屋市に通学している者もしくは通勤できている者については、これは貴重な意見になるのではないかと。他市との比較としてです。例えば、自分が住んでいる神戸市東灘区と芦屋市はこう違うという意見も、非常に貴重な意見になるのではないかと思います。

というのは、芦屋市だけとなると井の中の蛙ではないですが、芦屋市の中ではこうですが他市と比べるとこの点が優れているのではないかと、もう少しこの点を改善すべきではないかという比較目安も、1つ参考になるのではないかと思います。

【廣木会長】 ありがとうございます。

【事務局和泉】 川西市で行われた調査ではその項目があり、あなたは川西市に在住ですかと聞く項目がありました。

【廣木会長】 それは中高生ですか。

【事務局和泉】 高校生が対象です。

【廣木会長】 なるほど。この場合は全員ですか。

【事務局和泉】 全員にするのであれば、その項目を付けないといけません。

【廣木会長】 そうですね。他にどうでしょう。お気付きの点など持ちうるものを出してください。

【事務局大久保】 アンケートの分析についてですが、クロス集計するとき項目がたくさんあって、それとスマホサミットでもたくさんの項目に子どもたちが答えていますので、それも参考にしようかと思っています。

それともう1つ、最後の「若者に関する施策について、芦屋市に望むことがありますら」の設問ですが、前回にこれだけたくさんの意見をいただいたわけです。これもやはりこの中から内容によっては使えて、実質無料で使える勉強場所以図書館以外にもっとほしいとか、うちは実習室がありますが、高校生や一般の人で本当に一杯です。その居場所、遊び以外にも居られる場所がもっと芦屋市にあったらいいと僕は思います。

それから、ひきこもりやニートへの対策を立ててほしい、親の貧困で子どもが貧困の連鎖になるケースがある、勉強したい意欲ある人を応援する制度を設けてほしいとかも参考になります。本当にこの下を書く人はよっぽど何か思いがあって書いているわけで、ここの意見をもっと大事にして集約する必要があるのではないかとこのことを思っています。

【廣木会長】 そこは反省ですね。そのアンケートが十分共有できてなくて、それとのクロスなどが十分できなかつたと、今うかがって反省を思います。

【事務局大久保】とんでもないです。今日今回廣木先生に始めから入っていただき、申し訳ないですが、守上会長にも入っていただき、手前味噌になるかもしれませんが、本当にいいものができたと思っていますが。

ただ、これをどう分析してどう使うか、それから次世代の平成 32 年度や平成 36 年度までの施策の中でどう活かすか、前回とくに進路指導で我々も部長からも再三言われて、進路追跡調査をということで、なんとか一定の成果は得られたかと思いますが、それでも返ってきたのが全てではないので、その辺りもどうするかを考えたほうがいいかと思えます。

今回何も問題点は無くて、北野先生にも言わなかったのですが、前回確かお休みでしたね。先生に来てほしかったのですが、現場に返すことなく今の 2 年生についてはほとんど問題無かったです。芦屋の子については。公園の問題も 1 つ、昨年度宮塚公園を改修したのもありますが、まだまだ公園をどう使っていくかの話もあります。このアンケートを見ても、公園が子どもたちのものになっていないと書いている方もたくさんいます。その辺公園課とつながっていかないといけません。

だからうちの課でできることと、他課と一緒に連携をしないといけないことがあると思えます。その連携をもっと密にして、ここをもっとこうしてほしい部長からも言われますが、他課についてトライアルウィークでもっとこうしてほしいとかをもっと言っていかなければと強く思えます。

【廣木会長】ありがとうございました。先ほど三田先生の報告の中で、3 つのセミナーをやったら父親が来て、退職後の自分の居場所が無くなりそうで不安というのがありました。実は居場所がほしいのは高齢者もそうです。若い人が自由に来て勉強する場所もほしいけど、でも要するに、自分が家かお茶飲む所かそれ以外に場所が無いのは、私もこの歳になって分かることが一杯あります。自分が行って安心して新聞や本を読めたりできればいいなと思うことが少なからずあります。その意味で今の声が本当に子どもたちの問題と同時に、あらゆる世代にとって大事な問題だろうなと思えます。

【事務局大久保】今日廣木会長と話す中で、やはり外国人の問題もありました。

【廣木会長】そうですね。

【事務局大久保】それもやはり大きな問題かと思えます。

【廣木会長】本当にそうだと思います。そこは十分このアンケートの中では、意識していませんでしたっけ。

【事務局和泉】扉のところに、ご協力いただける方はご連絡くださいと書いています。実際には英語版を作るのは大変時間がかかると聞いていますので、聞き取りを行うことを、先行して子育て推進課も同様の調査を一步先にしています、1 人から英文のメールが来たと聞いています。国際交流課にも話を入れて、来たときには頼むよと言っていますので。

【廣木会長】あとどうですか、ご自由にお気付きの点を出していただいて。せっかく参加している糸魚川さん、今の皆さんのご意見を聞きながら、専門家とお気づきのこと

がもしあったら、出していただきませんか。

【コンサル】とくに対象の取り方の部分については、十分な配慮が必要になるかと思います。

とくに重複する中高生の部分ですが、その辺りの先ほどの抜けてしまっていていけない部分については、本当に私自身もそうだなと思いました。その部分を事務局で検討して、とくに今回の調査については、ひきこもり親和群でいわゆるひきこもりになる可能性のある方を拾うのは、今回の計画でも予防の観点から必要ではないかと思いますので、十分その辺りを配慮して調査を実施したいと思います。

【廣木会長】ありがとうございます。他はよろしいですか、大体こんなところで。今これだけの資料を、全部目を通す時間も無くて、後で帰宅してから時間を見つけてつくづくと見たところ、何か気づいた点がありましたら、この会が終わってからでも結構ですので、事務局に電話でも是非していただき、完成までの時間に限りがありますが、皆さんのお知恵を活かしたいと思いますので、そのことも併せてお考えいただきたいと思います。

【事務局和泉】是非ともご自分で聞いていただきたいと思います。

(3) 芦屋市子ども・若者計画について

【廣木会長】それでは今の検討項目については一応そういうことにして、これから子ども・若者計画をこのアンケート調査を含めて、全体をどんな流れで進めていくかについての報告をもう一度いただいて、それを含んでもしまたご家庭で気付いたことがあったら、ご質問していただくことで進めたいと思います。この点をお願いします。

【事務局大久保】（芦屋市子ども・若者計画についての説明）

【事務局和泉】（芦屋市子ども・若者計画についての説明）

【廣木会長】どうもありがとうございます。大体この流れですが、どうでしょうか。これで大丈夫だろうかというご質問や意見がありましたら、是非お願いしたいと思います。

【藤井委員】今アンケートが話が進んでいますが、例えばアンケートが3,000件募集をかけて、約3割として900件です。それが芦屋市民の皆さんの意見集約としていけるのかが1つあります。広くは市民の方に、全ての方には難しいですが、インターネットなどで、隠れていてアンケートには出てこないブレた方の意見というのも、非常に有益な意見が中にはあるのではないかとこのことで、その全てをオープンにしてしまうだけで、それは例えば先着1,000名とかの人数の区切りをして、それでより良い計画案が策定できるのではないかと思ったところです。

後でパブコメがありますが、ある程度骨子が固まってからになっていますので、アンケートはアンケートというかたちですが、アンケート以外にも埋れている有益な意見の集約もいろいろやっているといいかもしれないと思った次第です。

【事務局大久保】ネットアンケートは、実は前回のこの皆さんの声の中にも実際にありました。ネット立ち上げてそこでアンケートを取るのもいいかと思いますが、なかなかそれは本当に準備するのが難しいと思います。

【藤井委員】 アンケート形式ではなく、例えばその中で抽出して、不登校やひきこもりの対策について有益なものはないかのポイントに絞った、もしくは将来的に若者に関すること、芦屋市にどのことのかたちの、3つ項目外で記述式であればそういうものが出てくるのではないかというのもあるし、それがある程度集約しやすいかなど。全ての項目を載せてしまうとどうしても難しいですが、その中でここはどうなのかというかたちで抽出すればいいかと気がしました。

【事務局大久保】 今藤井課長のおっしゃったことも視野に入れながら、もう1つはこちらで鈴木委員はPTAで活躍しています。それから入江委員は愛護委員会ですので、その団体にもまたできたら質問をしたり、他の団体にも質問をかけたりにしていい、そういう会もしていきたいとは思っています。

質問用紙から何点か藤井会長が言ったように、抜き取ってここはどう思いますかということ、実際に行って話を聞くことになるかと思えます。それは前回も知っていますよね。

【田中委員】 このアンケートでは39歳までとなっていますので、この子ども・若者計画に関わる方は何も39歳以下の方だけではなくて、40歳以上の方も家族としてなどいろんなかたちでの関わりがあると思うので、その方のご意見もお聞きすることから、関係団体も含めていろんな所にヒアリングも実際にはした上で、計画をまとめることも大事ではないかと思っています。

【廣木会長】 非常に大事な指摘だと思いますが、もしそれをこのスケジュール表に入れるとすれば、それはアンケートが終わった後ですか。

【事務局大久保】 そうですね。アンケートが終わるか同時進行するかですね。片方では我々の方がいろんな会に出向いてどうですかと聞いていって、片方ではアンケートを集約してということで、アンケートの集約はコンサルがさせていただきますのでそちらはお任せして、ただ、ちょっとなかなか回収が思いの外手間膨れていないかと思うので、どの辺りでというのが難しいですが、一応1月末を締め切りにはしていますが。

【廣木会長】 なるほど。ありがとうございます。他にお気づきの点はありませんか。よろしいでしょうか。事務局でこのアンケートの本文を作る上で、今日ご参加いただきご指導もいただきながらですが、先ほど大久保さんからも出たように、かなり中身も自信もあるアンケートになりつつあるとのことですので、今いただいたいくつかのご意見を含んで、アンケートの項目はほぼこの方向でいくとして、アンケートの取り方でかなり煮詰めて、もうちょっと様々なご意見をしっかりと聞くことのできるような方向が大事だというのが、今のいろんなご意見の集約点かと思えますので、そういうことでよろしいですか。

【事務局大久保】 よろしいです。

【廣木会長】 どうもありがとうございました。それでは今日の3つの議題は今のところで終わりですが、全体を振り返って言い忘れたことはありますか。

それでは無いようでしたら、今日の議題はちょっと時間が早いですが、たまにはいいですよ。いつもオーバーします。とくにありますか。

【藤井委員】 今日皆さんのその他諸々聞いていて、防犯ボランティアの方が非常に高齢化してはいますが、今も見守り活動等をしていただいています。ながら防犯ということでランニングしながら防犯活動することで、若い方に今ランニングブームとこのことで、兵庫県警察と神戸新聞社、アシックスでしています。去年4月から発足して今回2019年度も実施するとのことで、12月1日からエントリーを開始する予定です。

応募資格は18歳以上で高校生は除きますが、各自治会長等には近日中に発送しますので、若い皆さんの地域の防犯のかたちで、若返りではないですが、していただければと思っています。

これはふれあいパトロールという黄色のTシャツがもれなくもらえます。去年はアシックスからシューズがあったのですが、途中不足があってやめる方がいましたので、今年はTシャツだけとしています。ですので、ながら防犯のかたちで、若いお父さん方も夜にお仕事から帰って来てから走りながらできますので、そういったこともやっていますとのことで紹介します。貴重なお時間ありがとうございます。

【廣木会長】 これは神戸市全体でもやっているのですか。

【藤井委員】 神戸も兵庫県全体でもやっています。芦屋市内では8名の方が登録をしています。夜など時間のある時に廻っていただくことになっています。夜は声をかけていただくことにもなっています。やはり先ほどもひきこりの話がありました。そのときに外に出るきっかけにもなるのではないかと思います。また「アサガオ」でもこういった活動に出てみないかと声をかけていただけたらと思いますので、よろしくお願いします。

【事務局大久保】 そのパンフレットがありましたら、いただきます。

【藤井委員】 多分にありますので。

【事務局大久保】 よろしくをお願いします。体育館に置いたらいいですね。

【藤井委員】 ごそつとあるので。

【廣木会長】 これは走る時間帯というのは。

【藤井委員】 時間帯はフェイスブックやツイッターなどで、今日何時に集まるとか先々の予定なのですが、JR芦屋駅に19時に集合とかで事前に。無理なく参加できる方はその時間帯にお集まりいただいて、例えば芦屋市内を1週したりして、結構防犯力と申しますか、あちこち県内で実効性が上がってきています。去年の3月末で満了するのですが、あちこちからの意見も出てきて、中には非常に有益だとのことで、実は芦屋市内の8名の方も時々廻っています。黄色のふれあいパトロールという、ふれパトというTシャツを着ていますので、そのときには声をかけていただけたらと思いますので、よろしくお願いします。

【廣木会長】 ありがとうございます。それではこれで全ての議事、報告が終わったと思いますので、あとは事務局でご説明ください。

【事務局大久保】 (次回予定の連絡と今後についての説明)
それでは会長、最後のご挨拶をお願いします。

3. 閉会

【廣木会長】今日は、本当は副会長にまとめてもらおうと思っていましたが、新しい方の第2次子ども・若者計画を作るにあたって、その基本となるのがアンケートのデータです。これは5年前のデータとは全く新しいもので、それを踏まえてもっと充実した子ども・若者計画を作りたいと思っていますので、私もずっと関わらせていただいて、こういうヒューマンスケールの小さな街だからこそ、できることは一杯あると思います。

その芦屋市の少しでも良い街にできるために、まずこの最初のアンケートから関わることができたのは、私にとっての初めての経験ですので、前は私が会長になる前のところからスタートしていましたので、今回はとても計画を作るのは大変だけど、皆さんとご一緒に作ることを楽しみにしていますので、是非ご協力をよろしくお願いします。今日はどうもご苦労様でした。ありがとうございます。

【事務局大久保】以上をもちまして閉会とします。皆様お疲れ様でした。ありがとうございました。お気をつけてお帰りください。

(閉会)